

随想

運と縁と恩

松淵 周司*



この随想が電気製鋼で皆さんに読まれる頃は、世の中が少し落ち着いていると思いますが、今は山中伸弥博士のノーベル医学・生理学賞の受賞（ヒト iPS 細胞の作製）で大騒ぎになっています。

私は良く本を読みますが、早速山中さんの自伝書 1) を購入し、読んでみました。大変実直で情熱的な人柄が現われており、さわやかな読後感でした。私たちが人として生きていく上で、また会社で業務を遂行する上で、大変参考になる事が多く、内容の紹介と山中さんの経験から私なりに感じた事を書きます。

山中さんは町工場を切り盛りしていた親の希望通り、医学部に入り臨床医（整形外科医）を目指していましたが、研修医時代に先輩医師から「ジャマナカ」と呼ばれ自分でも臨床医に向いていないと考え、研究者（大阪府大の大学院受験）への道を歩み出しました。

本人にとっては第一の挫折ですが、大きな転換期になりました。初期の研究テーマは研究室の教授から与えられたものばかりでしたが、研究に「驚き」と「感動」を見い出してどんどん研究に没頭していきました。

転機となるのは米国サンフランシスコ（グラッドストーン研究所）への留学です。

日本との研究における環境（資金力、設備力、人材の多さ、テーマ選定の自由度等）の差を感じながら、自分が目指す研究テーマに寝食を忘れて取り組みました。この時期、海外から日本という国を客観的に見られたことが、その後の山中さんの日本と日本人に対する想いを形成したと思います。

3年間の留学を終え日本に帰国後、あまりの研究環境の差を感じて”アメリカ後うつ病”（PAD）と呼ばれる海外留学生特有のうつ状態になったそうです。第二の挫折です。やる気を失い復活するまでの苦悩がありましたが、やはりここでチャンスが到来し、これを掴む努力をして今につながっています。

（自伝書はここからが佳境ですが、紙面の都合上割愛します。是非、自分で読んでみて下さい）

山中さんの言葉には、自分の置かれた環境で精一杯仕事をする事、更にもっと上を目指す努力を惜しまない事、出会った環境と出会った人々に感謝する事が随所に出てきます。

テレビのインタビューや新聞記事でも、山中さんを育ててくれた人たち、彼の研究を支えてくれた人たち、また、家族への感謝の言葉が多かったと思います。

*大同特殊鋼(株)取締役マテリアルソリューション部部长

私は、この自伝を通して「ヒト iPS 細胞の作製」の成功には次のキーワードがあると感じました。

①「ヴィジョン」を明確に掲げる重要性：

奈良先端大のバイオサイエンス研究科に助教授として採用され、教授がいない中で研究室を任された山中さんは、初めて一国一城の主になりました。大学院生争奪戦で優秀な学生を獲得するために「ヴィジョン」を明確に掲げました。これを学生の前でプレゼンし、優秀な学生とスタッフを獲得できました。しかしながら、「ヴィジョン」を掲げたことで山中さん本人の研究テーマに対する意思（覚悟）が明確になった事が一番重要だったと感じました。リーダーとしてチームを一つの目標に導くためには、リーダーの具体的目標への道筋とやり遂げる意思の表明が必要不可欠です。

②「運」は一生懸命やっている人にしか巡ってこない：

たまに「自分は運が無い」と嘆いている人に出会いますが、こういう人は概してうまくいかない理由を外部環境や他人のせいにしています。人に与えられるチャンスが完全に平等だとは思いませんが、与えられた環境でとことんやりきったか、更に高みを目指してやるべきことは何かを自問自答しながら実行する人にだけ運が巡ってくると思います。何事にも前向きな人には、たとえ一時の失敗も最終的な成功につながる「運」になるはずですよ。

③「縁」を大切にすると、「運」の連鎖がある：

社会で生きていく事、会社（組織）での仕事は決して一人ではできません。人は必ず外部・内部環境と人間に係わりを持って生きていかなければならず、その出会いは限られたものです。この環境、人間との出会いが「縁」ですが、これを大切にすると「運」のスパイラルアップというべき「運の連鎖」が起こるような気がします。

④「縁」を「恩」に感じる謙虚さが大切：

山中さんは自伝の中で、多くのチャンス（失敗）を与えられた事、素晴らしい人たちとの出会い、つまり「縁」に心から感謝しています。山中さんの成功要因のひとつは、これらの「縁」に対する「恩」を忘れない謙虚さだと思われる。常に感謝の気持ちを忘れない。なかなかできる事ではありませんが、是非見習いたい習慣です。

自伝書の中では、結論を導き出すための科学的なアプローチの方法、情報社会の中での効率的な情報収集の方法、プレゼンテーションの重要性等、私たちが仕事をするうえで参考になる内容が随所に記述されています。研究についての専門的な箇所も有りますが、運・縁・恩をキーワードにして読むと大変面白いと思います。

読んでみてはいかがでしょうか。

脚注

1) 著書名：山中伸弥先生に、人生と iPS 細胞について聞いてみた 講談社

2) 山中さんのヴィジョン：病気の治癒に役立たせるために「ヒトの体細胞から ES 細胞と同等の細胞を作る」

(November 8, 2012)